

歯科衛生士の需要予測に関する検討

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 畑山, 千賀子, 野村, 慶雄, 原, 久美子, 上原, 弘美 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/420 |

2-P-1

歯科衛生士の需要予測に関する検討

畑山千賀子
野村慶雄 原久美子 上原弘美

目的：超高齢化社会を迎え、歯科医療に対するニーズが多様化し、歯科衛生士が担う需要がますます高まってきている。しかし、歯科衛生士の需要に関する実態を把握したデータは多くない。本研究では、歯科衛生士の需要を予測するため実態把握を行った。

対象および方法：兵庫県下の歯科衛生士養成機関4校を対象に平成24年度から平成26年度の期間における入学者数・就業状況、求人件数、就職状況等について、また、兵庫県歯科衛生士会会員1092名（平成27年12月現在）を対象に、就業者には勤務診療所の実態、勤務状況等について、未就業者には未就業の理由、再就職の希望、再就職する際の希望就職先、再就職のために希望する研修等について、それぞれ郵送による自記式質問票の調査を実施した。

結果及び考察：歯科衛生士の新卒者数が増加しなければ、歯科診療所に最低2名の歯科衛生士を配置するのに約7年を要し、歯科衛生士の需要傾向は今後も続くことが示唆された。また、歯科衛生士不足解消には、歯科衛生士養成機関では学生教育だけでなくリカレント教育等の復職支援を積極的に行っていく役割があることが示唆された。本研究から復職希望者の多くは、摂食嚥下機能訓練に関する技術など専門的口腔ケア技術の取得を望んでいることがわかった。今後、歯科衛生士養成機関に求められる役割は、学生教育、離職者の復職支援の2方面から多職種連携の担い手となる歯科衛生士の育成であると考えられる。

2-P-2

ピアノ演奏表現向上のための教授法に関する研究

戸川晃子

本研究の目的は、ピアノ演奏技術向上及び演奏表現向上を目指した、効率的かつ効果的な教授法を探ることである。本研究では、本学に導入されたクラウド型教育支援システム（manaba course）を用いて、ピアノ学習者に課題曲の模範演奏の動画を提供し、それを活用して練習する方法を提案し、その成果を調べた。

研究方法は、まず、課題曲の模範演奏を録画し、その動画をmanabaの掲示板に掲載する。被験者は、掲示板にアクセスし、その動画を視聴することを練習過程に取り入れる。1週間の練習期間後、どの程度模範演奏動画を視聴し、何を参考にしたか等を問うアンケートをmanaba上で行う。また、練習後の学生の演奏を録画し、模範演奏にどの程度近づいているかを調べる。

アンケート結果からは、模範演奏を視聴する際はリズムを参考にした学生が多いことがわかった。一方で、manabaにアクセスしての動画閲覧や動画を貼り付けることについて、手間がかかるという意見もあった。

今後の課題としては、ピアノ学習において、練習過程やその演奏について、学生同士が議論し合えるmanaba活用法を模索したいと考えている。